

2番作野幸憲議員、登壇願います。

質問時間は2時21分までです。

〔2番 作野幸憲君 登壇〕

▼○2番（作野幸憲君）▽ 議席番号2番作野幸憲でございます。議長に許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

まず、質問に先駆け、5月31日に逝去されました井塚政美基盤整備部長様におかれましては、私は幼きころより公私にわたり大変お世話になりました。ここに深く感謝をし、ご冥福をお祈りいたします。

さて、今回私が質問させていただくのは、健康とスポーツについてと教育とスポーツについてでございます。

昨今、暗いニュースが多い中、私に感動や勇気を与えてくれるのはスポーツに関するニュースがとても多いような気がしております。現在、ロンドンオリンピックに向けた各競技の最終予選も大詰め、そしてサッカーワールドカップのアジア最終予選もきのうから始まりました。7月25日から始まるロンドンオリンピックで、また多くの感動と希望を与えてくれるドラマがあると思うと、今からわくわくしてきますし、とても楽しみでございます。

我が安来市でもスポーツは盛んで、バレーボールにフェンシング、ソフトテニスなどの多くの競技で優秀な成績をこれまでも上げてこられました。私自身もスポーツをこよなく愛し、多くの種目をこれまでもやってきましたし、現在でもマラソンに駅伝、野球にソフトボールを現役でやっています。また、スポーツ観戦も大好きです。そして、私のスポーツにおける当面の夢は、安来市内の高校が甲子園に出場してくれることです。

今回の質問をするに当たり、私は議員として将来の安来をどのようにしたいか考えてみました。私は元気で長生きでき、そして若者に魅力ある、夢が持てるまちづくりが必要だと考えました。そして、安来市も人口減少が進み、ことし5月末現在では住民基本台帳によると4万1,828人で、ここ1年間で513人も減ってきています。その前の1年間は475人でしたので、格段に人口減少のスピードが速くなってきています。人が少なくなれば財政の面や地域としての存続まで脅かされ大きな影響が出ますので、手をこまねいているわけにはいきません。何としても人口減に歯どめをかける政策が必要になると思います。今回は、少し視点を変えてスポーツを中心に質問をさせていただきます。

まず、健康とスポーツについて質問いたします。この質問は4つの項目に分けて質問いたします。

まず、1番目は、健康と運動についてです。

昨年10月に、文部科学省が平成22年度の体力・運動能力に関する調査結果の概要を発表しました。この調査の目的は、国民の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、体育、スポーツの指導と行政上の基礎資料を得るためのものです。皆さんも小学校のときにやった記憶がある踏み台昇降運動や垂直跳びのあれです。その後、平成10年に新体力テス

トに内容が変更になりましたが、昭和39年から継続して今日まで実施されています。一般的には、各市町村の教育委員会が小学校、中学校、高校、そして青年と高齢者を対象に実施しているものです。その調査結果の健康・体力に関する意識と体力という項目を見ると、20歳から79歳における健康状態に関する意識と運動・スポーツの実施頻度の関係を見ますと、男女とも大いに健康と意識する群の男子で約70%、女子で約65%がほとんど毎日あるいは時々運動しているとなっています。ほとんど毎日とは週に3日から4日以上、時々とは1日から2日程度ということです。傾向としては、20歳から24歳をピークに加齢とともに下がっていき、65歳から79歳になるとこの比率が高くなります。このような調査結果からも見てわかるように、適度に運動している人は健康と感じていることとなります。また、65歳から79歳の方も健康状態がよい方が多いという結果が出ています。この傾向は安来市にも当てはまると思いますが、20歳から65歳までの運動の促進が元気で長生きしてもらうことに大きくつながり医療費の削減にもつながると思いますがいかがお考えでしょうか、お答えください。また、健康やすぎ21の行動計画の取り組みの方向でもわかりますように、働く人たちの健康と運動の促進、そして環境整備が大事になると思いますが、そのための具体的な政策はどのようなものがありますでしょうか、お答えください。

2番目は、医療費削減のための政策についてです。

これは、以前から医療費や介護費用削減のための長期的な展望の視点での取り組みについて、私は生涯スポーツの環境整備がとても大事だということを質問してまいりました。現行の医療システムでは、医療機関は診療報酬の点数が今のままだと患者さんを多く見ないと経営的に厳しく、とても忙しい状態はなくならないと思います。また、皆保険制度は素晴らしい制度ですが、だれでも医者に診てもらえる、検査をしてもらえる、薬ももらえるという意識が国民には当たり前になっていることなどの国民の意識改革を変えることも含め、今の国の医療システムが変わらない限り簡単に医療費を減らすことは現実では難しい状況だとは思いますが、ですから、地道な生涯スポーツの環境整備政策をしっかりとしていかなければならないと思います。

以前、具体的に地元でやっている歩道を使ったウォーキングコースの設置などを提案してきました。そのときの執行部の答弁では、よい先例をつくってもらった、道路に距離表示をするのも可能になったということをはかの地域や団体に周知し、ウォーキングの奨励に努めてまいりたいというお答えをいただきましたが、その後どのように進めておられますでしょうか、お答えください。

また、スポーツ施設ということでは、市内にある2カ所のトレーニングジムの活用ももっともっていかなくてはならないと思います。私も時々使いますが、総合体育館のジムは平日でも結構人が多く、盛んに使われているように感じております。しかし、夢ランドしらさぎのジムは私が行ったとき、多くの方と会ったことはほとんどありません。両方を比べても、ジムの器具や整備状況はそう多くは変わらないと思います。ただ、料金が違います。これを見直せば、夢ランドのジムももっともって有効に活用できると思いま

すが、いかがお考えでしょうか、お答えください。

3番目に、新体力テストなどのデータの活用について質問いたします。

安来市でも、近年各地域を巡回する形で新体力テストが実施されています。昨年、我が能義地区でも、地区の体育協会が市の体育協会と協力し、50名ほどが参加し実施いたしました。私も参加し、全6種目に汗を流しました。その結果をあらわす判定表は迅速に届き、結果を見て自分の体力と運動能力がわかり、非常に健康管理や日ごろの運動に役立ってきています。ことしも、地区の体育協会ではこれは続けてやらないと意味がないと考え、実施する方向で検討をしています。健康と体力を各個人が認識し意識するためにも継続が必要だと思いますが、市としてのお考えはいかがでしょうか、お答えください。また、このデータを安来市の健康増進のためにも活用されてはと思いますがいかがでしょうか、お答えください。

ほかにも、地元ことぶき会の有志の方は、県労連の歩行調査などに協力して日々の歩行距離を万歩計を使って計測し、それを記録してデータを残す取り組みをしておられます。私はデータを活用し、データに基づく健康管理システムも必要だと思います。できれば、ブロードバンドを利用して長期的な展望に立った仕組みができればいいなと思いますがいかがお考えでしょうか、お答えください。

4番目に、スポーツ基本計画と安来市の施策について質問いたします。

ことし3月、文部科学省はスポーツ基本法の規定に基づき、スポーツ基本計画を策定いたしました。この計画は、スポーツの果たす役割を踏まえ、将来の目指すべき具体的な社会の姿を5つ掲示しています。その5つとは、1つ、青少年が健全に育ち、他者との共同や公正さと規律を重んじる社会、2つ、健康で活力に満ちた長寿社会、3つ、地域の人々の主体的な共同により深いきずなで結ばれた一体感や活力がある地域社会、4つ、国民が自国に誇りを持ち、経済的に発展し活力ある社会、5つ、平和と友好に貢献し、国際的に信頼され尊敬される国とうたっています。

また、この計画の期間は10年間程度を見通した平成24年度からおおむね5年間、地方公共団体が地方スポーツ推進計画を定めるための指針になるよう、国と地方公共団体が果たすべき役割に留意して策定してあります。また、その中には、平成24年度から5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策がうたっています。特に、関心が深いのは、学校と地域における子供のスポーツ機会の充実と若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり、支援等、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進、そして住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備となっております。

学校と地域における子供のスポーツ機会の充実では、今後10年以内に子供の体力が昭和60年ごろの水準を上回ることができるよう、今後5年間、体力の向上傾向が維持され確実なものとなることを政策目標にしています。また、若者のスポーツ参加の拡充や高齢者の体力づくり支援等ライフステージに応じたスポーツ活動の推進では、成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人、週3回以上のスポーツの実施率が3人に1人となることを目

標にし、成人のスポーツ未実施者、これは1年間に一度もスポーツをしない人の数がゼロに近づくことを目標にしています。そして、住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備では、住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備するために総合型地域スポーツクラブの育成やスポーツ指導者、スポーツ施設の充実等を図ることを目標としてあります。安来市も、ぜひともこの3つを目標に進めていただきたいと思います。

そこで、安来市もこれから地方スポーツ推進計画を定めることになるとと思いますが、安来市は安来らしさを考慮し、実情に合った計画を立てられると思いますがいかがお考えでしょうか、お答えください。

次に、教育とスポーツについて質問いたします。この質問は、2つの項目に分けて質問をいたします。

まず1つ目は、学力と体力の関係について質問いたします。

全国体力テストや学力テストの都道府県別の結果を見ても、学力と体力の間には大きな相関関係があるように私には思えます。それを示す代表的な都道府県が福井県や秋田県です。この両県は、いろいろな過去の経緯や取り組みなどによって、近年ずっと全国体力テストや学力テストで上位にランクされています。我が島根県は、全国文武両道の都道府県ランキング、これは学力テストと体力テストを合わせた物ですが、全国21位です。

そこで、福井県の教育の特徴を少し見てみたいと思います。特徴として言われているのが、福井県は先生が尊敬されている、塾に通う子が少ない、学校から毎日宿題が出る、これは日本で一番宿題が多いそうです。また、共働きの家庭が多い、三世帯同居の家庭も多い、子供部屋でなくリビングで勉強している子供が多い、出生率が高いということなど、いろいろあります。これは、福井県や県内の教育委員会が工夫をして取り組まれた結果だと私は思います。安来市も、もっともっと知恵を出し工夫をすれば、学力そして体力の両面を向上させることも十分可能だと思います。教育は国家百年の大計と言われ、長期的な物差しで見えていく必要もあります。それと同時に、私はスポーツを積極的に取り入れていくことによって、相乗効果で学力にもいい影響を与えておきたいと思います。

そこで、教育長さんにお尋ねいたします。

教育長さんは学力と体力の関係をどのように考えておられますでしょうか、ご所見をお聞かせいただきたいと思います。

最後は、教育後援会の位置づけについて質問をいたします。

現在、安来市には多くの教育後援会が存在し、学校教育や社会教育などを支えていただいております。本来、行政が面倒を見るべき教育予算を地域に協力してもらい、現在の安来市の教育が成り立っているのが現状だと思います。教育後援会という組織は、地域の学校や幼稚園、社会教育の振興、援助をするために昔から市内各地にあります。しかしながら、全国どこにでも存在するものではないようです。安来市の地域を中心とした教育後援会は、全国から高い評価を受けているとも聞いております。特に、近年は財政的に厳しくなり、教育委員会にお願いしてもなかなかできないことを教育後援会にお世話になること

もますますふえてきております。保護者にとっては大変ありがたいことです。我が能義地区でも、ほとんどの世帯が教育後援会に加入いただいております、子供やお孫さんがいなくても子供は地域の宝だと言って協力いただいております。その負担金額は、私の地域では2つの教育後援会、合わせて1件当たり年間3,600円でございます。これはかなりの金額だと思います。今や、教育委員会にとって教育行政を進める上においてもなくてはならない存在が教育後援会だと私は思います。

そこで、教育長さんにお尋ねいたします。

教育後援会は教育委員会にとってどのような存在で何を期待しておられるのでしょうか、お答えください。

いろいろな質問をしてみましたが、以上で壇上からの私の質問とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 近藤市長。

〔市長 近藤宏樹君 登壇〕

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 作野議員さんのご質問にお答えしたいと思います。

まず、健康とスポーツについてということでございます。

安来市でいろいろとスポーツ振興、健康推進を図るということでございます。ご存じのように、スポーツはまず大きく分けて2通りの目的があるのではないかと、こういうふうに思っております。1つは、わざを磨いて優秀な選手を育成し、記録に挑んだり人間としての、動物としてのその限界に挑む、こういうものが一つではないかと。もう一つは、やはり国民市民が広くスポーツに親しんで健康促進につながり、こういう2つの大きな目的があるのではないかと思っております。

安来市では、この前者、まずいろいろな選手を育成するというような目的は、ご案内のようにバレーボールでは安来高校、全国制覇いたしました。二中也全国制覇した経験もあります。また、バスケットでも安来高校、これも全国制覇いたしました。そして、今ではプロバスケットボール、スサノオマジック等、今開催しているところでございます。また、野球もかつて安来、県下でも大変盛んなところでございまして、プロ野球選手も何人か出ております。また、甲子園出場選手もたくさんございます。お盆には、自治会の野球大会で100チームを超えるチームが出て勝敗を競っているところでございます。また、フェンシングも安来高校、昨年2度目の全国制覇をいたしました。また、テニスでも、安来出身のプロテニスプレーヤーもいます。また、先月は松岡プロにテニス教室も開いていただいております。

また、後者の健康増進でございますが、市民プールあるいは秋の中海マラソンの開催、また各種各団体、各地区でのグラウンドゴルフ、ゲートボール大会、大変安来市は盛んでございます。このほかにも、安来体協、あるいはさくら総合スポーツなど、あるいは各団体、地域、各種スポーツ振興を行っていただいております。大変私はスポーツが盛んな安来である、こういうふうに思っておりますが、さらにスポーツ振興に努

めてまいりたい、こういうふうに思っております。よろしく願いいたします。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 伊達山教育長。

〔教育長 伊達山興嗣君 登壇〕

▼○教育長（伊達山興嗣君）▽ 私に対して、学力と体力の関係について所見をとということですので、ご回答をしたいと思います。

この学力、体力、いわゆる学力テストあるいは体力テスト、または受験学力といった狭い意味での所見は差し控えたいと思います。広く大きい意味での学力、体力についてお答えをいたします。

先ほど作野議員が話されましたように、文武両道ランキングでは体力が少し高く、総合的には第21位ということは、47都道府県のうち大変喜ばしいところに位置しておるかなと、このようには思っております。

さて、文部科学省から出ておりますいろいろと資料を見たり私たちが文科省から指導を受けている内容から考えますと、まず学力とは何ぞやということでもありますけども、これはまずは読み、書き、計算する、このように生活するに当たって最低必要な基礎、基本であろうかと思えます。これを土台とし、さらに関心、意欲、あるいは思考を判断するとか表現を処理する能力が学力であると考えております。簡単に言いますと、知る、わかる、応用する、これが私は学力であろうかと思えます。

次に、体力は、文科省は次のように言っております。体力は活動の源である。健康の維持のほか、意欲や気力の充実に大きくかかわっており、人間の発達、成長を支える基本的な要素であるとも言っております。したがって、安来市では、知・徳・体の調和的な発達を学校教育の基本方針の最初に掲げ、とても重要視しております。学力の向上と体力の向上及び豊かな心の育成がバランスよく図られていくような、各学校でさまざまな教育活動を工夫しながら展開していくように支援をしていきたいと、このように思っております。

次に、教育後援会につきましては、任意の団体ではございますが学校教育にとって大きな役割を担っている大切な存在だと認識しております。各校の学習活動の実情に応じて、物心両面から支援をしていただいておりますことに深く感謝をしておるところでございます。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 門脇健康福祉部次長。

〔健康福祉部次長 門脇正志君 登壇〕

▼○健康福祉部次長（門脇正志君）▽ それでは、ご質問の健康と運動について、運動の促進が元気で長生きしてもらうことにつながり、医療費の削減につながると思うがいかが考えるか、ということでございます。

生涯を通じた運動の推進は、健康増進、生活習慣病予防、介護予防につながるものであります。加えて、各種の健診を受けることにより疾病の早期発見、治療等、適正治療の継続を行うことで結果的に医療費の抑制につながるものと考えています。

具体的な政策はどのようなものがあるかということでございますけども、健康増進計画、健康やすぎ21でございます。第2次計画や次世代育成支援行動計画後期計画等に基づき、生涯を通じた運動の推進を図るための各種事業に取り組んでいきます。平成23年度からは、24地区の地区行動計画の評価、策定を進めており、その中で運動の推進を掲げ、地域全体での運動の習慣化を目指しております。子供のころから遊びを通じて運動の楽しさ、体験をすることがその後の運動への関心も高まることから、子育て支援センターでは幼児期から親子でヒップホップ教室等、運動実践、啓発に取り組んでいます。

地域におきましては、健康の保持、増進に向けてウォーキングやセラバンド教室、いきいき健康教室等、地区ぐるみの運動の実践や啓発を図っています。また、健康診断の健診結果をもとにした生活習慣の改善に向けて、運動を含む保健指導を行っています。介護予防においては運動機能向上事業等を実施、要介護の予防につなげております。医療費抑制には、健康を害するさまざまな生活習慣や環境の改善により病気を予防することが重要です。その生活習慣の改善の一つとして運動の推進に取り組んでまいります。

以上でございます。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 近藤健康福祉部長。

〔健康福祉部長 近藤 隆君 登壇〕

▼○健康福祉部長（近藤 隆君）▽ 私のほうからは、医療費削減のための政策の中で、夢ランドしらさぎのトレーニングジムの料金の見直しによる有効活用についてでございます。

夢ランドしらさぎの1回の利用料金は500円となっております。市民体育館の300円より高い料金設定となっておりますが、長期的にご利用をいただく会員券は夢ランドしらさぎは6カ月間で9,000円としており、市民体育館のフリー会員券、6カ月間使用したとして1万2,000円となりますので、それより安くなっております。また、夢ランドのトレーニングルームを利用された場合、入浴料を2割引きとしております。

なお、利用者数ですが、平成23年度は延べ3,556人で、前年度から124人ふえております。なお、市民体育館のトレーニングジム利用者数は同じ年で8,682人ですが、利用者数の違いにつきましては一概に料金的なものではなく、立地場所や施設そのものの利用目的が違うこともありますので、現段階での料金の見直しは特に考えておりません。

以上、答弁といたします。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 仁田市民生活部長。

〔市民生活部長 仁田隆敏君 登壇〕

▼○市民生活部長（仁田隆敏君）▽ 失礼いたします。私のほうからは、生涯スポーツに関連するご質問につきましてお答えさせていただきます。

まず、能義地区のウォーキングコース設置によります健康づくりの取り組みについてのご質問でございます。

これまで、能義地区の取り組みを優良先進事例といたしまして市の体育協会の参加団体

や交流センターの関係者などに紹介してきたところでございますが、残念ながら現在のところはまだ歩道に距離表示のあるウォーキングコースを設置したということはないようでございます。市といたしましては、今後は地域における事業展開が容易になるように、トライアングル事業などの補助事業を絡めた取り組みなどを提案してみたいというふうに考えているところでございます。

次に、体力テストに関しましてのご質問でございます。

議員ご指摘のとおり、体力テストにつきましては継続して実施する必要があると考えているところでございますので、今後も市の体育協会あるいはスポーツ推進委員と連携しまして各地区における体力テストに実施を継続してまいりたいと考えております。

また、体力テストのデータを集計し、その活用を図ってはということでございますが、現在体力テストのデータにつきましては、主に体力テストに参加された方々に個人の体力の状況を判断する材料として利用していただいておりますので、市としてデータの活用ということは行っておりません。体力テストのデータの活用につきましては、今後の検討課題というふうにさせていただきたいと思っております。

次に、スポーツ振興計画についてお答えをさせていただきます。

安来市のスポーツ振興計画の策定につきましては、国のスポーツ振興基本計画に基づきまして平成20年度より市のスポーツ振興審議会で審議を重ねていただくなど、その計画策定に向け準備を進めておりました。しかしながら、国のスポーツ振興法がスポーツ基本法に全面改正されることになりまして、国のスポーツ振興計画も変更されるということになりましたので、国から新たなスポーツ基本計画が示されるまで安来市の策定作業を一時中断していたというものでございます。ようやく、本年の3月に国の基本計画が示されましたので、今後安来市民を対象に実施いたしました健康とスポーツに関するアンケートの結果なども参考にしながら、市内のスポーツ団体や健康づくり団体等と連携しまして、市民がスポーツに親しめ、健康づくりにつながる計画の策定を目指してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 2番作野幸憲議員。

▼○2番（作野幸憲君）▽ 答弁ありがとうございました。

私が考えておりますのが、教育予算というものをこういうご時世といいますかこういう時代、教育をやっぱり重きを置いていく時代が今来ているなというふうに思っておりますので、安来市の教育の予算を見てまいりますと、ことしは一中の建設ということがありますので11%を超えておりますが、ずうっと大体10%からその近辺で推移しております。その部分をやっぱり少しでも配分を考えていただかないと、将来に向けて若い人、子供たちが夢を持てるような安来にはならないんじゃないかと私は個人的には考えております。これは、財政的な面が大きいので当然市長さんの判断が必要になってくると思いますが、この辺のところは市長さんはどのようにお考えになっているのか、お答えをいただきたい



と思います。

それと、もう一つは、教育後援会の位置づけということで、先ほど教育長さんのほうからは物心両面にわたり大変お世話になっているということで感謝しているということでしたが、各地域の教育後援会がどの程度年間お金を加入のときに出してもらっておられるのかとか、そのお金によってどういう施設とかどういうものを購入して教育に役立てておられるのかということを知っておられるのかどうか。たまに聞きますのが、教育後援会との連携がうまくいっていないようなことを聞くこともございますので、そこの辺の各教育後援会との連携をスムーズにやっていくようなことをどのように考えておられるのか、2点お尋ねしたいと思います。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 近藤市長。

▼○市長（近藤宏樹君）▽ 作野議員さんの再質問にお答えいたします。

本当に、私も教育というのは国の基である、こういうふうには思っております。この資源のない日本が、ほとんどない、資源のない国がこれだけ、かつては国際競争力1位、そして経済大国日本と言われた、これだけのことを築き上げたのも、やはり幕末から明治にかけてからの教育力にあった。こういうものが近代産業に結びついて、そして冠たる日本を築き上げたということもございます、教育というのはとても大事なものであるということで、今でも認識は変わりはありません。特に、最近、国際競争力が低下した。そういうことで、各界からこの学力低下、学力向上を初め知育、体育、徳育、この面も三拍子そろって日本の教育力を上げていかなきゃならんということを今全国民が認識しているところではないかと思っております。安来市も、できる限り一層教育の充実に努めてまいりたい、こういうふうには思っておるところでございます。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 伊達山教育長。

▼○教育長（伊達山興嗣君）▽ 現在、安来市、22の小・中学校のうち、2校を除くすべての学校に教育後援会が組織されておることを承知しております。ただ、その予算がどのぐらいか、1家族当たり幾らかということは私自身掌握しておりません。PTA等は違う地域挙げての教育後援会であろうかと思っておりますので、今後教育後援会の方々ともいろいろ相談しながら学校を支援していきたいと思っております。

ただ、先ほどどのぐらいお金がということがありますが、小学校はそれなりに見当がつきますが、中学校では全国大会に出る、あるいは中国大会に出る等々でそのときそのとき地域から幾らかの支援をいただいて、もし出ないということもありますので、幾らかためていらっしゃるところもあろうかと私は考えております。

以上です。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 2番作野幸憲議員。

▼○2番（作野幸憲君）▽ ありがとうございます。

実情としては、以前にも質問したことがありますが、遊具が最近物すごく小学校等でごくなくなっていて、撤去はするけどその後なかなかつくってもらえないという現状も今も続い

であるように聞いております。やっぱりそういう部分も含めて、教育後援会がそういう遊具を実際にお金を使ってつけているという実態もありますので、やはり教育長、教育委員会としては、この遊具は教育後援会さんが出して新しくなったとか、そういうことは当然把握しておられると思いますが、ある程度の連携をしっかりとっていただいてその辺のところを、先ほどおっしゃったように物心ともにお世話になっておるということであれば把握のほうももう少ししていただいて、安来市の教育行政がより一層進むように努力をしていただきたいと思いますと考えております。

以上で私の一般質問とさせていただきます。ありがとうございました。

▼○議長（遠藤 孝君）▽ 以上で2番作野幸憲議員の質問を終わります。